

91 豚増殖性腸炎

| 担当      | 検査チャート  |
|---------|---|
| 家畜保健衛生所 | <pre> graph TD     A["(1) 疫学調査"] --- B["(2) 臨床検査"]     A --- B     B -- "(死亡豚、鑑定殺豚)" --&gt; C["(3) 剖検"]     C -- "(糞便)" --&gt; D["(4) PCR"]     C -- "(病変部粘膜)" --&gt; E["(5) 病理組織検査"]     E --&gt; F["(6) 免疫組織化学検査"]     D -- "(+)" --&gt; G["(+)", "判定・結果"]     D -- "(-)" --&gt; H["(-)", "判定・結果"]     E -- "(+)" --&gt; I["(+)", "判定・結果"]     E -- "(-)" --&gt; J["(-)", "判定・結果"]     F -- "(+)" --&gt; I     F -- "(-)" --&gt; J                     </pre> |
| 病性鑑定施設  | <p>(4) PCR</p> <p>(5) 病理組織検査</p> <p>(6) 免疫組織化学検査</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p>  |
| 判定・結果   | <p>(+)</p> <p>(-)</p> <p>(+)</p> <p>(-)</p>   |
| 最終判定    | <p>疫学調査、臨床検査、必要に応じてPCR、免疫組織化学検査等の結果を併せ、病理組織検査結果により総合的に本病とする。</p>  |
| その他     |   |

→類似疾病検査

- ① 83 豚赤痢 ② 95 豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症 ③ 73 サルモネラ症  
④ 67 炭疽 ⑤ 豚胃潰瘍

○ 病原体: *Lawsonia intracellularis*

(1) 疫学調査

- ① 肥育豚や若い母豚、種豚に発生する。  
② 飼料の急変後に発生することが多い。  
③ 特定養豚場に発生が多い。

(2) 臨床検査

- ① タール様血便  
② 突然の死亡  
③ 貧血  
(腸腺腫症)  
① 発育遅延  
② と畜検査で発見される場合が多い。

(3) 剖 検

- ① 回腸粘膜の肥厚と凝固血液の貯留  
② 大腸に血液を混じた便の貯留  
③ 必ずしも出血部位は明らかでないことが多い。  
(腸腺腫症)  
① 回腸部における粘膜の肥厚  
② 粘膜の壊死、偽膜の形成  
③ 必ずしも出血は伴わない。

(4) P C R <sup>1)</sup>

- ① 発生が疑われた場合、発症豚および同居豚の糞便を材料とした nested PCR を実施し、浸潤状況を把握する。  
② 剖検時に採取した回腸粘膜を材料とした nested PCR を実施し、病理組織検査結果を踏まえて確定診断を行う。

(5) 病理組織検査

- ① 主に回腸～結腸の粘膜上皮、特に陰窩の腺腫様過形成  
② 増殖した粘膜上皮細胞内に鍍銀染色で湾曲した菌体が認められる。

(6) 免疫組織化学検査

- 増殖した粘膜上皮細胞内および粘膜固有層の浸潤マクロファージ内に細菌抗原を検出する。

その他:

(注)原因菌は偏性細胞寄生性細菌であり、人工培地には発育しない。免疫組織化学検査またはPCRによる *L. intracellularis* の証明と病理組織所見に基づく診断が主体となる。

(参考文献)

・大宅辰夫: 豚病学(柏崎 守ら編)、第4版. 323-327、近代出版、東京(1999).

1) Jones, G.F., et al.: J. Clin. Microbiol. 31, 2611-2615 (1993).